

大村高校のSSHで Super Smile Happy になりました

『卒業生によるコメント』⑤



R2年度卒 大山 綺香
(熊本大学理学部化学科)



R2年度卒 中村 翔空
(宮崎大学農学部応用生物科学科)

私はSSHで「植物からインクをつくろう」というテーマのもと、探究活動に取り組みました。現在、大学では理学部に所属し、化学を専攻していますがSSHでの経験は様々な場面で役に立っていると実感しています。特に、探究活動を通して身につけた「課題発見・解決力」、「論理的思考力」は研究をするうえで必要不可欠な能力であると感じています。課題を明確にしたうえで、その原因を突き止め論理的に解決案を講じるという過程は研究の一般的な流れであります。大村高等学校での課題研究は、大学における実験や研究にとっても近いと思います。高校生の段階でSSHを通して本格的な課題研究を行えることは大村高校の大きな魅力であると思います。また私が在籍していた頃よりも、現在はさらに設備や器具などの環境が整っていると伺いました。このような充実した環境の中で探究を行えることは非常に貴重な経験になると思います。ぜひみなさんにも大村高校で自分の興味のある分野について探究を深めながら自身のスキルを向上させる機会にしてほしいと思います。

SSHを通して学んだこと

私は、大村高校の3年間でSSHの活動を通して、たくさんのことを学びました。私が、高校生の時は、「アリの住みやすい環境を作ろう」というテーマで課題探究に取り組みました。SSHの探究の時間で得た経験は、大学生になった、今、とても役に立っています。現在、大学で、微生物の機能を開発する研究を行っています。実験を行っていく中で、実験が上手くいくときもあれば、失敗する時もあります。成功、失敗に関わらず、データをまとめるのですが、そのデータをまとめる時に、SSHの経験がとても生きています。また、実験が失敗した際には、なぜ上手くいかなかったのかを考え、その際、Plan-Do-Check-action（通称：PDCAサイクル）を回して、「次の実験はここを変えて、してみよう！」であったり、「この実験が上手くいかない理由は何だろうか？」ということ、実験をする毎に、行うことで、実験をより円滑に行うことができます。SSHの経験は、理系の大学に進学することになれば、間違いなく貴重な経験になると思います。また、理系、文系に関わらず、高校生でこの経験をできているのは、全国で見てもわずかな高校生なので、この経験をぜひ将来の自分のために生かしてみてください！